

東京都新宿区北新宿1-8-16
東京土建一般労働組合
電話03 (5332) 3971 (代表)
FAX03 (5332) 3972
発行人・編集人
三木 勉

印刷部数11万1500部
(購読料は組合費のなかに含まれています)
(年間購読料 千八百円) 定価 五十円



東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

50歳未満の仲間の声を集めます

8月から年末まで、50歳未満の組合員を対象にQRコード付きアンケート活動を取り組みます。働き方や要望を聞き取り、今後の組合活動に活かしていきます。該当する方は協力をお願いします。

コロナ禍から仕事とくらしを守る夏の一大運動

東京都に4回目の緊急事態宣言が発令されるなど、コロナ感染の収束が見えないなか、仲間をひとりにつないで、建設アクションの運動がより一層重要となっています。各支部でも様々な取り組みが進んでいます。

月次支援金の相談会開催

自分で手続き「難しい」



仲間の相談を受ける御崎主任書記(右)

7月13日、港支部は支部会館で月次支援金の相談会を開きました。案内は6月に地域分会の全組合員と全事業所に送っており、この日は7人が相談に訪れました。

個人で板金工事業を営んでいる仲間は、店舗の改修工事やオフィスの原状復帰工事などが多く、昨年からコロナの影響を受けているといいます。昨年の持続化給付金は自分で手続きできましたが、今回の月次支援金はホームページを見た限りでは、自分で申請するのは難しいと感じてい

たところ、組合から案内が届いたので相談してみようと思ったそうです。実際に手続きを進めてみて、「これだけ手間がかかるのでは、一人親方やってる人などは10万円ならいいかと諦めてしまっている仲間は、これなら、一律に10万円配った方が早いのではないかと思う」と話してくれました。

スポーツクラブなどのメンテナンス工事を行なっている個人事業の仲間は、「メンテナンスはコロナで相当減っている。スポーツクラブもコロナ

多摩西部 建デ。ポ宣伝でアンケート 仲間の状況が心配

7月13日に行なった行動紀【多摩西部支部では夏の拡大行動日に合わせて7〜8月に計5回、「建デポ店頭宣伝」に取り組んでいます。組合のパンフレットと共にコロナ感染症に関する各種助成金のチラシも一緒に配り、また賃金アンケートの聞き取りも同時に行なっています。中には組合員の仲間もお

重要となっていることを再認識しました。

また未組織建設従事者には「困ったときは東京土建に」

大に奮闘していきます。

たて営業できなかった時期があり、その間は従業員を遊ばせておくわけにいかず、自分たちでメンテナンスをやっていたようだ」と話していました。持続化給付金と家賃支援給付金は自分でできましたが、組合からの勧めもあって、すでに一時支援金の申請も組合で行なったそうです。



懇談にあたり挨拶する名越書記

江東 CCUS、建退共は組合へ J Vの現場で懇談会

【江東・書記・名越秀和記】7月15日、行動参加者6人賃金対策部員2人・PARKoto役員2人・書記2人が江東区発注の第二大島中学校改築工事現場に向かいました。

現場話所に通され、奥に土建6人、手前に元請(関東・塚本・テッケン建設共同企業



購入した資材を運ぶのを手伝いながらアンケートに回答してもらった

また副部長(監督)さんからは「今は監督の立場が一番弱いよ」「現場は職人だけでなく、監督も手が届かないよ」など本音や愚痴なども交え、全員で和気あいあいとした終えました。

次回(半年後予定)の懇談会・アンケート調査も約束を取り、今後もJ Vと労働組合が協力して建設業の発展に寄与していく貴重な一歩となりました。

■菅首相は昨年10月の所信表明演説でコロナに打ち勝った五輪を強調したが、最近では「打ち勝った」から「難局を乗り越えていく」にトーンダウンした。

コロナ感染への不安には「政府として感染防止に全力を尽くす」と繰り返し、確かな方策は見られない。すでに期待されていたバブル方式には欠陥が指摘され、毎日、大会関係者の感染が伝えられている。

■社会学者の上野千鶴子さんが7月2日から始めた五輪中止を求めるネット署名は、短期間にも関わらず、14万筆近い署名を集めた。東京五輪開催も争点となった都議選では中止が延期を主張した立憲民主党と中止を訴えた共産党が議席を伸ばした。

■こうした民意など無視するかのよう、テレビでは五輪一色だ。これまで五輪開催に懐疑的な番組作りをしていた民放も応援企画中心になった。報道機関としての役割を投げ捨てているNHKと民放の罪は重い。せめて東京五輪が終わった段階で開催して良かったのかどうか、きちんと検証して報道すべきだろう。

お詫びと訂正

7月20日号の一面に掲載した多摩産材が使われている遊具の写真は、三鷹市ではなく武蔵野市の公園のものでした。お詫びして訂正いたします。